

令和6年2月27日

保護者・地域の皆様
関係各位

国分寺市立第五小学校
校長 橋本 弥記

令和5年度「学校評価（最終）」について

日頃より本校の教育活動についてのご理解・ご協力を心より感謝申し上げます。

さて、令和5年度の「学校評価（最終）」を作成いたしましたので、別紙のとおりご報告いたします。

なお、ホームページにも同様のものを掲載しております。



1 配布内容

別紙1 令和5年度学校評価計画書

別紙2 令和5年度学校評価自己評価書

別紙3 令和5年度学校評価関係者評価書

2 学校評価について

来年度、この評価をもとに教育活動や学校運営について、一層の充実、改善を図ってまいります。保護者や地域の皆様には、アンケート等で貴重なご意見を賜りましたことに感謝申し上げます。

【問い合わせ先】

副校長 前多 紀子

電話 042-322-0045

教育目標：○元気な子 ○やりとげの子 ○考える子 ○思いやりのある子
 めざす学校像：保護者や地域から信頼される学校
 めざす児童像：子どもたちが主体的に学び活動する学校
 めざす教師像：教職員が協働して教育活動を創造していく学校

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標評価				成果指標評価			
				中間	最終	基準		中間	最終	基準	
						4	3			4	3
豊かに表現する力を育てる教育の充実	考え、豊かに表現し、実践できる力を育成する。	○情報活用能力を育成するための活動を充実させ、豊かな表現力と実践力を育成する。	ONIEや図書資料の活用とともに、GIGA スクール構想による1人1台のタブレット型PCやICTを活用した授業改善を図り、情報活用能力のより一層の伸長を図る。 ○校内研究では国語科を中心として児童に情報収集・整理・分析・表現・発信できる力を育成する。	○	○	4	授業改善をほぼ実施できたとする教員が90%以上	○	○	4	課題解決力や情報活用能力が育ってきていると言える児童・保護者が80%以上
		○読書を含む図書資料を用いた学習活動の充実を図る。 ○基礎学力の確実な定着を図る。	○図書館の活用、地域教材の開発や地域人材の活用を通して、学ぶ楽しさと学び方を指導する。 ○東京ベーシックドリルを活用して反復学習を習慣化し、未習熟事項を残さない。 ○習熟度別指導、算数補習教室を実施し、個別最適な学びの充実を図る。	○	○	4	ほぼ実施できたとする教員が90%以上	○	○	4	学ぶ楽しさを実感し、学習したことが定着したと言える児童・保護者が80%以上
保護者・地域と連携した学習や活動の開発	地域社会との連携を深めた教育活動を展開する。	○分かりやすい言葉で、保護者・地域の方々に積極的に情報発信する。 ○保護者・地域からの情報を生かし、児童が地域のためにできる学習活動を模索し、開発する。 ○地域の特性を生かした「国分寺学」の創出に向け、小・中連携教育の推進を図り、各教科等において授業改善を進め、学力の向上を図る。	○ブログやスクールメール、デジタル連絡ツール「スクリレ」を活用し、日々の教育活動を積極的に発信する。 ○コミュニティ・スクール協議会等の意見を生かしながら、地域の期待に応える教育活動を推進し、地域との連携を図った教育活動を発展的に継続する。 ○地域の人々などと触れ合う学習を計画して多様な価値観や生き方に触れる機会をつくる。 ○小・中連携事業として一中学区小中学校において、国分寺市を知り、郷土を愛する心情を育てる。	○	○	4	ほぼ実施できたとする教員が90%以上	○	○	4	地域学習及び情報発信の内容・回数等についての理解と満足度の高さが80%以上
		○OPTAや地域と協力しながら周年行事に向けた取組を推進し、開校の節目を共に祝うことで、児童の愛校心を育成する。	○10月末の周年行事へ向けて、保護者・地域に積極的に協力を仰ぐため、学校だよりに学校ボランティアを募集するQRコードを掲載し、周知徹底を図る。 ○周年記念集会では、PTAと共に子どもたちの心に残るような企画立案や、卒業生である保護者や地域の方に講演を依頼し、地域とともに祝う周年行事を目指す。	○	○	4	ほぼ実施できたとする教員が90%以上	○	○	4	周年行事や関連行事に関する取組への満足度の高さが80%以上
豊かな心を育てる教育の充実	人権尊重の精神を育成し、豊かな心を育てる教育を充実する。	○自尊感情の向上を図る。	○「自分を大切に、友だちを大切に、一人一人を大切に 国分寺を大切に」を五小の合言葉に、互いのよさを認め温かい声掛けのできる学級づくりを行う。 ○道徳教育は教育活動全体を通して継続して取り組み、授業のキーワードを記入した記録を教室に掲示する。 ○特別支援教室担当教員を中心に特別支援教育の理解教育に努め、教職員・児童のみならず、保護者・地域にも特別支援教育の理解を深める。	○	○	4	ほぼ実施できたとする教員が90%以上	○	○	4	他者を思いやる気持ちを表す言動ができる割合90%以上
		○学校や学級への帰属意識を高める。	○保護者・地域と連携し、学校・家庭・地域において、適切な言葉遣いや挨拶のできる環境を整え、実践力を育てる。 ○クラブ活動や児童会活動、縦割り班活動等の充実を図り、異学年活動を通して交流を深めることで帰属意識を育む。	○	○	4	ほぼ実施できたとする教員が90%以上	○	○	4	すすんであいさつができる児童が80%以上

教育目標:	○元氣な子 ○やりとげ子 ◎考える子 ○思いやりのある子
めざす学校像:	保護者や地域から信頼される学校
めざす児童像:	子どもたちが主体的に学び活動する学校
めざす教師像:	教職員が協働して教育活動を創造していく学校

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	分析コメント	改善策
豊かに表現する力を育てる教育の充実	考え、豊かに表現し、実践できる力を育成する。	○情報活用能力を育成するための活動を充実させ、豊かな表現力と実践力を育成する。	○ONIEや図書資料の活用とともに、GIGA スクール構想による1人1台のタブレット型PCやICTを活用した授業改善を図り、情報活用能力のより一層の伸長を図る。 ○校内研究では国語科を中心として児童に情報収集・整理・分析・表現・発信できる力を育成する。	3	4	4	4	○校内研究を通して、情報活用能力についての系統的な指導の成果が表れている。情報収集から発信までの指導について教師の学びを深めることができた。 ○様々な教科の学習においてタブレットを使った授業の回数が増えた。また子どもたちもタブレットを使うことにすっかり慣れ、必要な情報かどうかを考えながら適切に使いこなしている。 △ICTの活用については学年・クラスによって差がある。	・2年間の校内研究で取り組んできた「情報収集・整理・分析・表現・発信する力」の育成を今後も継続して行っていく。 ・タブレットの活用は、効果的な導入や有効な方法等について実践を重ねながら、学年や全体で共有していく。 ・教員のICT指導力の差を埋められるよう、今後も情報教育推進教員を中心に定期的なICT指導力についてOJTの充実を図る。
			○図書館の活用、地域教材の開発や地域人材の活用を通して、学ぶ楽しさと学び方を指導する。 ○東京・ベーシックドリルを活用して反復学習を習慣化し、未習熟事項を残さない。 ○習熟度別指導、算数補習教室を実施し、個別最適な学びの充実を図る。	2	2	4	4	○学校司書と連携を図ったことで、図書資料を学習に活用することができた。 ○登校できていない児童にオンライン授業を行い、学びの保障を心掛けた。 ○東京・ベーシックドリルだけでなく、まなびポケットも使って反復学習を行った。 △東京・ベーシックドリルの活用はできたが、全単元までは終わられていない。	・司書教諭が推進役となり、各学期に設定されている読書旬間をはじめ、子どもたちに読書の魅力、楽しさを味わわせられるような取組を充実させる。 ・今後も個別最適な学びの充実を目指した指導を行う。 ・東京・ベーシックドリルを中心に、まなびポケットも活用しながら、既習事項を確実に身に付けさせる。
保護者・地域と連携した学習や活動の開発	地域社会との連携を深めた教育活動を展開する。	○分かりやすい言葉で、保護者・地域の方々へ積極的に情報発信する。 ○保護者・地域からの情報を生かし、児童が地域のためにできる学習活動を模索し、開発する。 ○地域の特性を生かした「国分寺学」の創出に向け、小・中連携教育の推進を図り、各教科等において授業改善を進め、学力の向上を図る。	○ブログやスクールメール、デジタル連絡ツール「スクリーン」を活用し、日々の教育活動を積極的に発信する。 ○コミュニティ・スクール協議会等の意見を生かしながら、地域の期待に応える教育活動を推進し、地域との連携を図った教育活動を発展的に継続する。 ○地域の人々などと触れ合う学習を計画して多様な価値観や生き方に触れる機会をつくる。 ○小・中連携事業として一中学区小中学校において、国分寺市を知り、郷土を愛する心情を育てる。	2	2	4	4	○各学年、専科、せんだん教室において、地域と連携した授業の充実が図られた。 ○スクリーンによるデータ配信も定着してきており、学校だより、給食だより、保健だよりに加え、せんだんだよりもスクリーンによる配信を行った。 △ブログは配信予定だったものが、計画どおりにアップできないものもあった。 △地域連携については教員によって温度差がある。 △国分寺学については、来年度からの実施へ向けて理解を深めていく。	・国分寺学については、作成した学習系統表をもとに、今後、GSの実績と結びつけながら、教師の意識化を図っていくことが課題である。 ・小中連携事業において、中学校校区における地域人材や地域教材についての情報共有を行うことで、新たな地域人材や地域素材の開発を行い、国分寺学の充実に努める。
			○10月末の周年行事へ向けて、保護者・地域に積極的に協力を仰ぐため、学校だよりに学校ボランティアを募集するQRコードを掲載し、周知徹底を図る。 ○周年記念集会では、PTAと共に子どもたちの心に残るような企画立案や、卒業生である保護者や地域の方に講演を依頼し、地域とともに祝う周年行事を目指す。	2	4	4	4	○QRコードによるボランティア募集は効果的だった。 ○家庭科や園工、また音楽等、専科の授業では個別指導の際、保護者のボランティアによるサポートが非常にありがたかった。 ○周年行事に向けて皆で力を合わせて準備ができた。児童の心にも深く残ったようだ。 △ボランティアだよりについて、毎月配布されていることが知られていないという実態がある。また、ボランティアに手を挙げてくださる保護者も一部に固定されている。	・保護者や地域ボランティアについては今後も早めに募集をかける。またボランティア募集を呼びかける手段も保護者会で話題にしたり、ボランティアだよりをスクリーンにもアップしたりするなどして積極的に呼びかけ、周知徹底を図る。 ・地域連携授業について今年度実施して良かったものは地域連携一覧表に残し、次年度へ引き継ぐ。
豊かな心を育てる教育の充実	人権尊重の精神を育成し、豊かな心を育てる教育を充実する。	○自尊感情の向上を図る。	○「自分を大切に 友だちを大切に 一人一人を大切に 国分寺を大切に」を五小の合言葉に、互いのよさを認め温かい声掛けのできる学級づくりを行う。 ○道徳教育は教育活動全体を通して継続して取り組み、授業のキーワードを記入した記録を教室に掲示する。 ○特別支援教室担当教員を中心に特別支援教育の理解教育に努め、教職員・児童のみならず、保護者・地域にも特別支援教育の理解を深める。	3	4	4	4	○家庭・学年・学校全体で情報共有し、組織的に課題解決に向けて取り組むことができた。 ○休み時間、授業中等、子どもたちとの関わりを意識しながら一人一人の特性や実態に合わせた支援に努めた。 ○友達のをよさを紹介する機会を意図的に設定し、温かな声掛けにより、互いを認め合える環境をつくった。 ○特別支援の教員対象の研修会は有意義だった。また、児童の理解教育もほぼ全学年で実施できた。 ○サポート教室により、不登校傾向からの改善が見られた。	・今後も一人一人の良さを認め、子どもたちにとって学校が楽しく通いたいと思える環境づくりに努める。そのために、クラス遊びや休み時間にも子どもたちと関わる時間を意識的につくる。また多面的な視点による児童理解を深めるため、学年や専科等で情報共有する時間の確保を行う。
			○保護者・地域と連携し、学校・家庭・地域において、適切な言葉遣いや挨拶のできる環境を整え、実践力を育てる。 ○クラブ活動や児童会活動、縦割り班活動等の充実を図り、異学年活動を通して交流を深めることで帰属意識を育む。	4	4	4	4	○挨拶についての指導を繰り返し行い、教師自ら元氣な挨拶を行うことで挨拶の習慣が身に付いてきた。 ○縦割り班遊びが充実しており、子どもたちの6年生に対する憧れや帰属意識を育むことができた。小集団だからこそ生まれる気遣いや思いやり、安心感が生まれ、異学年のよさが感じられた。 ○5・6年生の委員会活動においては協力的に取り組む姿が見られた。 △一部に暴言等、言葉遣いに課題が見られる児童がいる。	・挨拶だけでなく、言葉の大切さを意識させながら、家庭とも連携を図って継続して指導を行っていく。 ・学校全体で集まる際の制限もなくなったため、全校で集まる集会活動についても見直し、充実を図る。 ・5年生は3学期は次年度の引継ぎ期間と捉え、6年生から引継ぎをしっかりと行っていく。 ・暴言等の課題についてはその都度、指導し、絶対に見逃さないという姿勢で指導にあたる。

教育目標: ○元気な子 ○やりとげの子 ◎考える子 ○思いやりのある子

めざす学校像: 保護者や地域から信頼される学校

めざす児童像: 子どもたちが主体的に学び活動する学校

めざす教師像: 教職員が協働して教育活動を創造していく学校

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	今後の課題	学校関係者評価記入欄
豊かに表現する力を育てる教育の充実	考え、豊かに表現し、実践できる力を育成する。	○情報活用能力を育成するための活動を充実させ、豊かな表現力と実践力を育成する。	○NIEや図書資料の活用とともに、GIGA スクール構想による1人1台のタブレット型PCやICTを活用した授業改善を図り、情報活用能力のより一層の伸長を図る。 ○校内研究では国語科を中心として児童に情報収集・整理・分析・表現・発信できる力を育成する。	3	4	4	4	☆2年間、校内研究で取り組んできた情報活用能力を生かしながら、次年度の研究につなげていく。 ☆1人1台タブレットは、教員・児童・保護者アンケートの結果から活用が図られていることが分かった。今後はどの単元で導入するのが効果的なのか、また有効な方法等について実践を重ねながら、学年や全体で共有していくことで、教師のICT指導力の差をなくす。そのため、今後も情報教育推進員を中心に定期的なICT指導力についてOJTの充実を図る。	・5年生のポスターづくりでは、SDGsに関連する内容が盛り込まれており、着実に進んでいると感じた。先生によっては、ICT指導に負担感もあると思うが、情報化社会の流れは今後もさらに続くので、ICT指導力を磨いてほしい。 ・保健委員会が新聞を活用して情報発信していた。 ・地域安全マップづくりに同行した際、子どもたちがカメラ機能を使いこなして感じてくれた。途中フリーズするトラブルもあったが、慣れた様子で対応し、子どもたち自身でトラブルを解決していた。
			○図書館の活用、地域教材の開発や地域人材の活用を通して、学ぶ楽しさと学び方を指導する。 ○東京ベシーック・ドリルを活用して反復学習を習慣化し、未習熟事項を残さない。 ○習熟度別指導、算数補習教室を実施し、個別最適な学びの充実を図る。	2	2	4	4	☆子どもたちに読書の魅力、楽しさを味わわせられるような取組を充実させる。 ☆不登校児童には今後もオンラインによる授業も継続して視野に入れながら、個別最適な学びの充実を目指す。 ☆東京ベシーック・ドリルの実施状況から低い数値結果となった。しかし、2学期に行ったベシーック・ドリルの結果からは昨年度と比較して満点正答率が上がるなど、日常的に行っている反復学習の成果が表れている。今後はアンケート実施の際、ベシーック・ドリルについての説明を丁寧に行い、ベシーック・ドリルについて共通理解を図る。	・活字離れが指摘されている。学校で読書活動を充実することで、子どもたちには自分の知らないことを楽しく学ぶ取組をたくさんさせてほしい。 ・図書館利用も積極的に行うことで、豊かな心を育てる教育を大切にしたい。 ・東京ベシーック・ドリルについては、今後も子どもたちの習熟を図ることや、どこでつまづいているのかを知る手立てとして、教員には活用してほしいが、もし、その活用頻度によって学校評価の努力指標が低くなってしまっているのであれば、具体的方策の文言を変更しても良いのではないかと。
保護者・地域と連携した学習や活動の開発	地域社会との連携を深めた教育活動を展開する。	○分かりやすい言葉で、保護者・地域の方々へ積極的に情報発信する。 ○保護者・地域からの情報を生かし、児童が地域のためにできる学習活動を模索し、開発する。 ○地域の特性を生かした「国分寺学」の創出に向け、小・中連携教育の推進を図り、各教科等において授業改善を進め、学力の向上を図る。	○ブログやスクールメール、デジタル連絡ツール「スクリーン」を活用し、日々の教育活動を積極的に発信する。 ○コミュニティ・スクール協議会等の意見を生かしながら、地域の期待に応える教育活動を推進し、地域との連携を図った教育活動を発展的に継続する。 ○地域の人々などと触れ合う学習を計画して多様な価値観や生き方に触れる機会をつくる。 ○小・中連携事業として一中学区小中学校において、国分寺市を知り、郷土を愛する心情を育てる。	2	2	4	4	☆努力指標について、国分寺学についての教員の自己評価が低かった。実際には国分寺学について実施していないためであるが、来年度の本格実施に向けて、教師の理解を深め、次年度からの指導計画・指導資料作成にあたる。 ☆児童アンケートでは「地域の行事に参加したいと思うか」という設問に対し、高学年になるに従って肯定的な回答が低くなる傾向が見られた。子どもたちに地域の良さや積極的に伝える必要がある。 ☆小中連携事業において中学校区では地域人材や素材についての情報共有を行うことで、新たな地域人材や素材の開発を行い、国分寺学の充実にも努める。	・地域行事に関するお知らせをデータ配信のみにしてほしいといった要望があると聞いているが、子どもたちが直接パンフレットなどを見ることで、参加したいという思いをもってもらうことが大切である。このため周知についてはデータだけでなく、紙との併用で地域行事への参加率も上がるのではないかと、タブレットで子どもたちに周知する方法もある。 ・自然と歴史豊かな国分寺で育つ子どもたちには国分寺学を通して地元を愛する気持ちを育ててほしい。これからは地域の一人として情報提供など協力していきたい。 ・国分寺学は学校単位で違うのか？差が出るのが心配である。 ⇒理念は市全体で共通するが、地域ごとに特色があるため取組内容はおのずと違ってくる。
			○10月末の周年行事へ向け、保護者・地域に積極的に協力を仰ぐため、学校だよりに学校ボランティアを募集するQRコードを掲載し、周知徹底を図る。 ○周年記念集会では、PTAと共に子どもたちの心に残るような企画立案や、卒業生である保護者や地域の方に講演を依頼し、地域とともに祝う周年行事を目指す。	2	4	4	4	☆周年行事で育まれた愛校心や帰属意識を大切にしながら、これから先の10年へ向け、より良い学校づくりの担い手としての意識を高める。 ☆新たに開発した地域と連携した教育活動について、今年度実施して良かったものは地域連携一覧表に残し、次年度へ引き継ぐ。 ☆保護者の声から、ボランティア募集について周知が徹底できていない実態があることが分かった。このため、CSとして、また国分寺学を推進していく観点からも、地域の方にも分かりやすく、参加しやすい方法を構築する。	・周年行事では、公民館で五小の60年を振り返るパネル展示が行われるなど、地域連携がしっかりと図られていた。また式典当日は高学年児童の参加で、すばらしいパフォーマンスがあり、子どもたちの心に残る良い取組だった。 ・ボランティアだよりの試みは地道に継続することが大切である。 ・最近のボランティアだよりは分かりやすくなったとは思いますが、それを目にするのは保護者と一部の地域や学校関係者に限られていると思う。地域の学生など、若い方もボランティアに参加してもらえるような発信をしていけると良いのではないかと。
豊かな心を育てる教育の充実	人権尊重の精神を育成し、豊かな心を育てる教育を充実する。	○自尊心の向上を図る。	○「自分を大切に、友だちを大切に、一人一人を大切に国分寺を大切に」を五小の合言葉に、互いのよさを認め温かい声掛けのできる学級づくりを行う。 ○道徳教育は教育活動全体を通して継続して取り組み、授業のキーワードを記入した記録を教室に掲示する。 ○特別支援教室担当教員を中心に特別支援教育の理解教育に努め、教職員・児童のみならず、保護者・地域にも特別支援教育の理解を深める。	3	4	4	4	☆2学期末に行われた持久走記録会では温かい心のこもった声援が聞かれた。また、6年生の児童が転んだ低学年児童の介抱をするなど思いやりのある行動も見られた。今後も子ども一人一人にとって教室に居場所がしっかりと保障される学級運営をめざす。 ☆休み時間にも児童と関わる時間を確保し、児童理解を深められるようにする。 ☆理解教育の年間計画を作成し、各学年の発達段階に応じて、他者理解や思いやりの精神を育めるよう、特別支援教育を充実させる。	・外国籍の児童については言葉の壁もあり、他の児童とコミュニケーションがうまく図れていないか心配な面もある。本校児童が国際教室に何人か通室し、少人数で丁寧に指導してもらっていると聞いている。学校でも他者理解の精神や、思いやりの気持ちを育ててほしい。 ・学校だけでなく、保護者・地域全体が他人を思いやる気持ちで接することで子どもたちの豊かな心を育てていけると良い。
			○保護者・地域と連携し、学校・家庭・地域において、適切な言葉遣いや挨拶のできる環境を整え、実践力を育てる。 ○クラブ活動や児童会活動、縦割り班活動等の充実を図り、異学年活動を通して交流を深めることで帰属意識を育む。	4	4	4	4	☆挨拶に関するアンケートは児童・保護者アンケートで肯定的な回答が8割を超え、教員アンケートからも概ね満足しているという声が上がった。今後は挨拶だけでなく、言葉の大切さを意識させながら、家庭とも連携を図って継続して指導を行っていく。 ☆特活部を中心に、年間計画の見直しを図り、集会等の充実を図り、異学年交流の場を多く設定することで、児童が主体的に活動に取り組みめる教育活動を充実させる。	・見守り活動をしているが、五小の子どもたちは皆、優しく明るく育っていると感じる。 ・毎日ハトロールをしているが、まずは大人から声掛けをすることが大切だと考える。挨拶し会話を通して信頼関係をつくり、子どもたちが安心して学校へ行けるよう掛けている。学校でも子どもたちがすすんで挨拶できる取組をたくさん行ってほしい。